

道路災害現場に緊急出動！

～ 7月29日低気圧による大雨に伴う災害対策支援 ～

北海道付近では、平成22年7月27日から30日にかけて、大気の非常に不安定な状態が続いたため、断続的に激しい雨が降りました。特に29日には、日本海側を中心に大雨となり、24時間降水量が積丹町米国で171mmとなるなど、道内各地で観測史上最多を記録しました。

この大雨により、住家の一部損壊、床上・床下浸水が発生し、避難勧告・指示が12市町村の1783世帯に対して発令されたほか、道路の通行止め、断水、JRの運休など道民生活に大きな影響を与えました。

道内の国道では、7月29日、冠水や土砂流出などにより7路線が通行止めとなり、国道を管理する国土交通省北海道開発局から寒地土木研究所へ道路防災有識者による現地調査・点検の要請があったため、寒地基礎技術研究グループ上席研究員、総括主任研究員の3名が、災害現場に緊急出動しました。

寒地土木研究所では、「岩盤」、「土質」、「構造」、「雪氷」、「越波」など各分野の道路防災有識者として、8名の研究員が委嘱を受けており、災害発生時はもちろんのこと、平常時の対応も含め、技術的・専門的見地からの助言・指導を行っています。

今回の緊急出動は、一般国道229号及び231号における道路災害現場で、対応概要は以下のとおりです。

- ①一般国道229号 積丹町、神恵内村、泊村
 - ◆被災状況：切土法面の崩壊、土砂流出など（人的被害なし、トンネル電気室埋没など）
 - ◆派遣者：防災地質チーム 伊東上席研究員
 - 被災箇所及び周辺の状況をヘリコプターで上空から広範囲に観察し、現状の分析、原因の推定、今後の道路管理手法などを助言・指導
- ②一般国道229号 余市町
 - ◆被災状況：梅川トンネル内における漏水（人的・物的被害なし）
 - ◆派遣者：寒地構造チーム 今野総括主任研究員
 - トンネル内漏水箇所及び周辺の地山を調査し、現状の分析、原因の推定、供用再開に向けた助言・指導
- ③一般国道231号 増毛町

◆被災状況：落石（人的被害なし、仮設落石防護柵破損）

◆派遣者：寒地地盤チーム 西本上席研究員

○落石箇所及び周辺を調査し、現状の分析、応急対策及び恒久対策などを助言・指導



一般国道229号キナウシトンネル、大森トンネル
電気室埋没現場（写真提供：小樽開発建設部）



一般国道231号増毛町落石現場 現地調査

寒地土木研究所では、道路防災有識者制度など国への災害対策支援のほか、「土木技術のホームドクター」として、北海道や道内市町村からの要請や要望を受け、災害対策や土木構造物の機能診断など技術的課題に対する相談、指導を積極的に行っています。

今後とも研究成果や技術開発を生かした取り組みを充実させ、地域に密着した活動を展開していきます。